



おにぎり通信

2017年9月2日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷周辺と銀座、日比谷公園、東京駅

周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

今日9月2日は、日本で最初の総理大臣になった伊藤博文の誕生日です(偶然ですが、伊藤博文を暗殺した安重根の誕生日も同じく9月2日です)。

伊藤博文は千円札の肖像画に描かれていたことでも(一定の年齢以上の人には)馴染みがあります。お札に肖像画があるのは、にせ札を作りにくくするためです。今のお札には歴史上の人物が描かれていますが、最初の日本銀行券には七福神の大黒さまが描かれていました。にせ札づくりを防ぐ方法もどんどん進歩していて、昔からある肖像画や透かしだけではなく、特殊な光を当てると色が変わるインクが使われていたり、良く見ると印刷の一部が立体的に盛り上がっていたりと、多くの工夫がこらされています。

私たちが訪問しているコースの途中の日本橋に、お札を発行している日本銀行があります。日本銀行には貨幣博物館が設けられていて、見学することができます(入場無料)。冷房も効いているので、暑い日には涼みがてらにお金について学びに行ってみるのもいいかもしれません。

☆8月21日(月) 福祉行動報告

どなたもお見えになりませんでした。

次回の福祉行動:9月4日(月)

東京駅丸の内南口地下に朝8時30分までに集合してください。車輪の前

に「おにぎり通信」を持った者が待機しますので、声をかけてください。病气や

ケガの治療を希望される方や体を休めたい方と一緒に「福祉事務所」まで同行します。

福祉行動は原則、毎週月曜日に行います。福祉行動は、参加される方が、ご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと福祉事務所に伝えることで成り立ちます。

最寄の福祉事務所

中央区福祉事務所...中央区築地 1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所...千代田区九段南1-2-1 3階

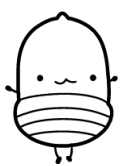
【夜と霧】

世界中で読まれている「夜と霧」という本があります。ヴィクトール・フランクルという心理学者が、第二次世界大戦中のナチス強制収容所における自らの経験について書いたものです。ナチスの強制収容所についての本がたくさんある中で、フランクルの著作が多くの人に読み継がれているのは、この本が人生の意味について教えてくれるからです。

収容所に入れられた人の多くは、過酷な労働や、厳しい生活環境、そしていつ死ぬかわからないという極限状態の中で、次第に人間らしい感情が無くなっていきます。そうならないと、自分ではどうにもならない状況にとっても耐えられないからです。他にありようがないのです。しかしながら、通りすがりの人に温かい言葉をかけたり、なけなしのパンを譲ったりと、自分が苦しい中であっても、人間らしい思いやりを持ち続けた人びとが少数とはいえたのです。フランクルは言います。「彼らは、真っ当に苦しむことは、それだけでもう精神的になにごとかを成し遂げることだ、ということを経験していた。仕事に真価を発揮できる行動的な生や、楽しく遊び過ごす生や、美や芸術や自然をたっぷり味わう機会に恵まれた生だけに意味があるのではない。そうではなく、強制収容所での生のような、仕事に真価を発揮する機会も、体験に値すべきことを体験する機会が全くない生にも、意味はあるのだ。」

収容所のある日、フランクルは他の収容者に、ひとりの仲間について語りました。その仲間は収容所に入って間もないころ、天と契約を結んだのです。自分が苦しみ、死ぬなら、代わりに愛する人間には苦しみをまぬがれさせてほしい、と。これにより、この男にとって、苦しむことも死ぬことも意味のないものではなく、犠牲としてこよなく深い意味に満たされるものになったのです。

私たちは、意味なく苦しみ、死ぬことを欲しません。そして、人生への意味の与え方は人それぞれ違います。そんな中で、苦しみが故に、誇りを保って真っ当に苦しむことで生を意味深いものにした人たちがいたことを、フランクルは我々に教えてくれています。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せず、ゴミ箱に入れるなど、片付けにご協力をお願いいたします。おにぎりは必ずその日のうちにお召し上り下さい。また、お1人1個でお願いします。

よつや なかま れんらくさき
四ツ谷おにぎり仲間 連絡先：080-7795-8535